【土木計画学研究・講演集　No.18(1)　1995年12月】

散歩行動の実態とその類型化に関する研究

The Condition and the Classification Analysis on Stroller's Behavier

外井哲志・坂本紘二・井上信昭・中村 宏・根本敏則

Satoshi Toi, Koji Sakmoto, Nobuaki Inoue, Hiroshi nakamura, Nemoto Toshinori

1．はじめに

本格的な高齢化社会を迎えて、健康面からの歩行や散策の重要性はますます高まることが予想される。こうした状況の中で、安全で楽に歩けるだけでなく、気持ちよく歩ける歩行空間を質・量ともに充実することが要請されるであろう。一方、健康面ばかりでなく、散歩を通して自分が住む町の良さや問題点が再確認され、町への愛着が深まるという効果もある。このように、散歩はより良いまちづくりのための一つの重要な視点を提供するものであると考えられる。

ところで、散歩は歩行の一つの究極の形態であり、散歩道の理想像の研究は、豊かな歩行空間の創造に貢献するところが大きいと考えられる。著者らは、こうした観点から、散歩に関する文献調査と概念整理、福岡市における散歩の実態調査など実施してきたが[1),2)]、散歩行動ならびにまちづくりと散歩との関係をより詳細に分析することを目的として、福岡県田主丸町で実態調査を実施し、その調査結果の一部を公表した[3),4)]。本論文では、その後に実施した散歩行動の類型化を中心に報告する。

2．調査の概要

田主丸町は、福岡県筑後地方の田園地域にある人口２万２千人の町である。就業構造は第１次産業と第３次産業が全体の８割以上を占めているが、近年、中心市街地の商店街の衰退が著しい。

調査は、田主丸町の中心部の24地区（世帯数1158、居住者4120人）を対象地域とし、同地区から464世帯を抽出した。対象者を中学生以上とし、留置法により平成６年10月に調査を行った。

意識調査の内容は、①世帯（世帯構成、構成員の性別、年齢層、職業、居住の年数と形態など）、②散歩行動、③買物行動、④中央商店街の町並み評価から構成されているが、その他、各自の散歩経路に関する調査も実施した。

3．散歩行動の実態

有効回答者数は814人であり、その内訳は、男性359人、女性455人であった。年齢階層別には、表－１のとおりである。

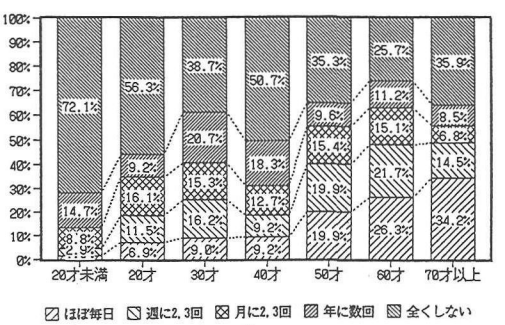
散歩の頻度については、表－２に示すように散歩をする人が全体の58％、散歩をしない人が全体の42％となっている。男女別では、女性の方が毎日散歩する比率が高く（男14％：女19％）、全く散歩しない人の比率が低い（男48％：女38％）。

表－１　年齢層別内訳

20才未満	68人	8.4%
20~30未満	87	10.7
30~40未満	111	13.6
40~50未満	142	17.5
50~60未満	136	16.7
60~70未満	152	18.7
70才以上	117	14.4
合計	813	100

表－２　散歩の頻度

ほぼ毎日	137人	16.8%
週に2,3回	120	14.7
月に2,3回	107	13.1
年に2,3回	107	13.1
全くしない	343	42.1
合計	814	100



図－１　年齢階層別の散歩頻度

キーワード：歩行者交通行動、空間設計、意識調査分析

*1 正会員，工博，九州大学工学部（福岡市東区箱崎6-10-1，TEL092-641-1101，FAX092-651-0190），*2 正会員，工修，下関市立大学，*3 正会員，工修，福岡大学工学部，*4 正会員，工博，福岡大学経済学部，*5 正会員，福山コンサルタント

表－３　散歩の目的

気分転換のため	123人	25.6%
体力向上・健康維持のため	222	46.2
日課として	35	7.3
なんとなく	58	12.1
その他	43	8.9
合　　計	481	100

表－４　散歩の種類

歩くことを目的とした自宅周辺の散歩（特に目的地はない）	227人	51.7%
近くに公園や神社・仏閣があり、その中で時間を過ごす。	40	9.2
近くの公園や神社・仏閣、川や眺望がよい場所など、いくつかの決まったポイントを周遊する	65	14.9
自宅や農場周辺の町並みや路上・路側の観察	41	9.4
その他	64	14.6
合　　計	437	100

表－５　散歩の時間

30分未満	218人	47.0%
30分~1時間	210	45.3
1~2時間	34	7.3
2時間以上	2	0.4
合計	464	100

表－６　散歩の時刻

早朝	102人	20.2%
午前中	55	10.9
昼休み	6	1.2
午後	53	10.5
夕方	88	17.4
夜間	73	14.5
決めていない	128	25.3
合計	505	100

表－７　散歩時の天候

暖かく晴れた日でないと散歩しない。	172人	38.9%
曇っていたり、すこし風がある日でも雨が降らなければ散歩する。	231	52.3
少々の雨なら、散歩を欠かすことはない。	39	8.8
合　　計	442	100

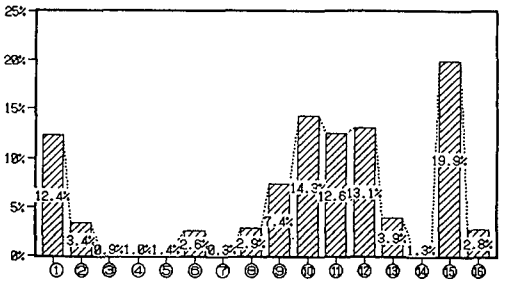
表－８　散歩の意義

有意義である	339人	76.4%
特に意義を感じない	105	23.6
合　　計	444	100

年齢層別にみると、図－１に示すように年齢層が上がるにつれて、散歩の頻度も高まる傾向がみられる。この他、40才代では、前後の年代に比べて散歩をしない人の割合が高いこと、50才代以上の年代で、週に2,3回以上の頻度の割合が急増すること、70才以上では、毎日散歩する人の割合と全く散歩しない人の割合がともに増加し、両極化が進むことなどの特徴がみられる。

散歩の目的については（表－３）、体力の向上・健康維持のためが46%、次いで気分転換のためが26%と多い。「その他」には、犬の散歩16、子守り（子や孫）11などが含まれる。

散歩の種類については（表－４）、目的地を持たずに自宅周辺を歩くタイプの散歩が52%と多く、神社・仏閣や川などいくつかのポイントを周遊するタイプや、路上観察型の散歩はあまり多くない。「その他」には、犬の散歩26、買物のついで９、子守り



注）①閑静で気持ちが落着く。②休憩できる場所、見晴らしのよい場所がある。③商店や人が多く賑いがある。④迷路のようで何か面白いものを発見できそう。⑤町並みの景観が美しい。⑥道の両側の家々の生け垣や庭の花が美しい。⑦歴史的な建物や史跡を見て楽しめる。⑧散歩仲間と話ができる。⑨自然の動植物に接することができる。⑩川や池、堤などの水辺があって気持ちがよい。⑪美しい自然の風景がある。⑫自動車がめったに通らないので安全。⑬路面に土が残されていて歩きやすい。⑭照明施設が充実しており、明るい道だから。⑮自宅の近くにある。⑯その他

図－２　散歩コースを選んだ理由

５などが含まれ、散歩目的との混同がみられる。

散歩する時間は（表－５）、30分未満と30分から１時間未満のものがほぼ同数であり、合せて92%に達する。散歩の時刻は（表－６）、早朝（20%）、夕方（18%）夜間（14%）等に分散しており、特に決めていない（25%）が最も多い。

天候の影響については（表－７）、雨が降らなければ散歩する人が大半であり、雨が降っても散歩に出かける人は９%に過ぎない。また、表－８によれば、75%の人が散歩に意義を見いだしており、25%の人が意義を見いだせないままに（犬の散歩などか）義務的に散歩をしている。

散歩コースを選んだ理由の頻度を図－２に示す。理由として⑮自宅の近くにある、をあげる割合が高い（20%）が、より積極的な理由では、⑩水辺があって気持ちが良い（14%）、⑫自動車が通らない（13%）、⑪美しい自然の風景がある（13%）、①閑静で落着いている（12%）をあげる人が多い。これらを見る限り、都市・賑いよりも自然・落着きを求める傾向が強いことがわかる。

そのほか、散歩は一人でする場合が多い（45%）が、家族を同伴する場合も多い（30%）こと、ラジオやステッキ等の所持品を携行する人は少ない（20%）こと、歩行距離や時間等の目標をもって散歩をする人は約17%であること、散歩には、春（40%）と秋（45%）が好まれること、などが明かとなった。

4．散歩行動の類型化

（1）主要因子の抽出とその解釈

散歩行動の類型化を行うため、まず、行動に関する10項目（散歩の頻度、種類、同伴者、目的、時刻、時間、目標の有無、天候の影響、所持品の有無、意義を感ずるか）計37カテゴリーに対する367組の回答データに数量化Ⅲ類分析を施し、散歩行動を規定する主要な因子（軸）を抽出した。表－9に第4軸までの固有値と対応するカテゴリースコアを示す。

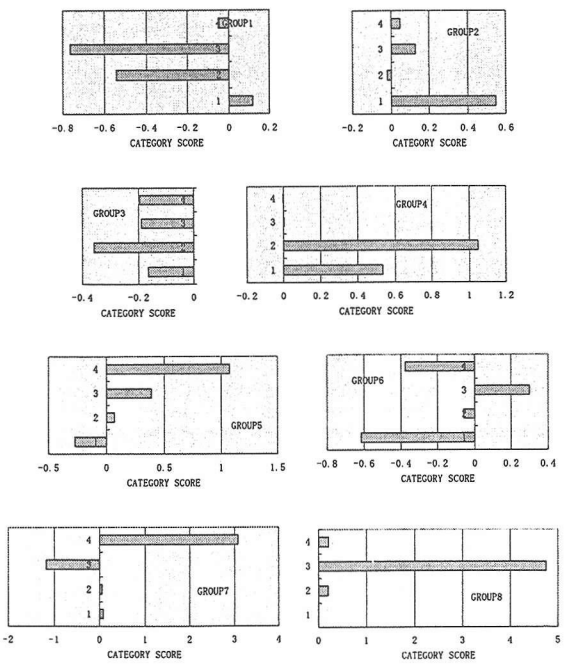
ここで、第4軸までのカテゴリースコアの絶対値が大きなカテゴリーを＋－別に整理したものが表－10である。表-10に示したように、第1軸は、日課として天候にかかわらず散歩を励行するタイプと、気分次第でときどき散歩するタイプとを両極とする軸であり、律儀さと気儘さを表すものである。第2軸は、犬の散歩を義務的に行うか、自分の健康維持を目的に意義を感じて行うかを両極とする軸であり、散歩に対する他律性、自律性を表すと考えられる。第3軸は、昼休み時に町並みや植物などの観察を兼ねて散歩するタイプと家族や友人を伴ってピクニック感覚で散歩するタイプを両極とする軸で、ある意味で日常性と非日常性を示すものといえる。第4軸は、子供や孫を連れて午前・午後に散歩するタイプと友人との夕涼みや日課としての夜間の散歩を両極とする軸であるが、散歩の時間帯がまったく異なることから、昼型、夜型を表すものと考えられる。

表－9　固有値とカテゴリースコア

	1	2	3	4
	0.3155	0.2131	0.1464	0.1429
（散歩頻度）				
ほぼ毎日	1.8462	0.9129	-0.2236	-0.8590
週2,3回	0.0068	-1.0422	0.7236	1.0746
月2,3回	-0.7210	-0.2873	0.7103	1.0091
年数回	-1.7487	0.3535	-1.5005	-1.4643
（散歩の種類）				
歩く	0.3548	-0.6202	-0.3347	-0.7064
時を過す	-1.6493	0.8326	-2.9333	2.4879
週遊する	-0.6951	-0.7930	0.0084	-0.4184
観察する	-0.9163	-0.4812	4.7378	0.3504
その他	0.9450	2.9671	0.3225	1.4653
（同伴者）				
一人	0.0051	-0.5003	1.4072	-0.0947
家族	-0.9294	-0.3349	-1.6270	1.1117
友人	1.3458	-1.6926	-2.4609	-2.3427
犬など	1.1142	3.0616	0.2450	-0.5205
（散歩目的）				
気分転換	-1.5698	-0.0075	0.3497	-0.2929
健康維持	0.9523	-1.3020	0.0292	-0.1715
日課	1.7973	3.5212	1.4400	-1.0993
なんとなく	-1.9793	0.7570	-0.9547	-0.5000
その他	0.4525	2.7908	-0.9895	3.2940
（散歩時刻）				
早朝	1.7529	0.2383	-0.4004	-0.8318
午前	0.0704	0.2925	-0.3036	3.4364
昼休み	0.5186	1.1984	11.3869	-0.1049
午後	-0.0118	-0.2797	0.2028	2.9027
夕方	-0.3411	0.9614	-0.3349	-1.4989
夜間	1.1120	-0.9416	-0.8670	-1.1242
不定	-1.3703	-0.1049	0.4803	-0.2436
（散歩時間）				
30分未満	-0.5858	0.9690	0.7632	-0.2049
1h未満	0.2992	-1.0717	-0.5684	-0.2949
1h以上	1.7257	0.1612	-1.4749	2.8088
（目標の有無）				
無し	-0.4360	0.3002	0.1537	-0.1300
有り	2.0226	-1.5288	-0.7883	0.5414
（天候の選択）				
晴天のみ	-1.4111	-0.1281	-0.5186	0.0792
雨天以外	0.5744	-0.4462	0.5688	0.2525
雨天でも	2.6855	2.9432	-1.1009	-2.1813
（所持品）				
無し	-0.3427	-0.1287	0.1453	-0.4996
有り	1.3810	0.4805	-0.6669	2.0420
（意　義）				
感じる	0.4282	-0.4567	0.2379	0.2572
感じない	-1.5754	1.5464	-0.8699	-0.9754

表-10　各軸の特徴を表すカテゴリー

軸番号		主要なカテゴリー	特徴
1	＋	ほぼ毎日、日課として、早朝、1時間以上、目標をもって、雨天でも	日課型（習慣型）
	－	年に数回、時を過ごす、なんとなく・気分転換に、時刻不定、30分未満、目標なし、晴天時のみ	気分型
2	＋	ほぼ毎日、犬の散歩、日課として、昼休み・夕方、30分未満、雨天でも、意義は感じない	義務型（犬の散歩）
	－	週に2～3回、周遊する、友人と、健康維持、夜間、1時間未満、目標あり、雨天以外、意義を感じる	健康型（友人と）
3	＋	週に2～3回、観察する、1人、日課として、昼休み、30分未満、雨天以外、、意義を感じる	昼休型 観察型
	－	年に数回、時を過ごす、家族・友人と、なんとなく、1時間以上、所持品あり、意義を感じない	ピクニック型
4	＋	週・月に2～3回以上、家族（子供や孫）と、午前・午後1時間以上、所持品あり	子守型 昼型
	－	年数回、友人と、日課として、夕方・夜間、雨天でも	夕涼型 夜間・日課型



図－4　群別のスコアーの平均値

（２）散歩行動の分類

第８軸までのスコアーを用いて367個のサンプルにクラスター分析（Euclid距離、最遠隣法）を施して、全体を８個の群に分類した。ここで、各群のサンプルスコアーの平均値を求め、群別に示したのが図－４である。

群１は、第２軸と第３軸のスコアーが負となっており、健康型、ピクニック型の特徴をもつ。群２は、日課型（習慣型）の特徴が強い。群３は、健康型の特徴が最も強いが、気分型、ピクニック型などの特徴も備えている。群４は、義務型（犬の散歩）および日課型の、群５は、子守り型の特徴がみられる。群６は、気分型の特徴が、群７は、子守り型の特徴が最も顕著である。群７と群５との相違は、群５が昼休型（自宅の周辺、短時間）であり、群７がピクニック型（長距離、長時間）であることである。群８は、昼休（観察）型の特徴が顕著である。

（３）個人属性、経路選択理由と行動分類との関連

行動分類の分析に用いた367サンプルを用いて、各群に出現しやすい個人属性（性別、年齢層、職業）と経路選択理由をクロス集計によって調べた。この際、基準化を行い、各属性と選択理由の内部でのカテゴリー間のサンプル数の偏りの影響を排除した。

各群に出現しやすい属性と選択理由を簡略表現で表-11に示す。

群１は、女性の比率が高く、賑いやコミュニケーションを求め、群２は、日課型で高齢の男性の比率が高く、休憩・見晴らしや風景、自然の動植物などを求めている。群３は、健康型・気分型で町並みの美しさと自然の風景と自動車が通らないことを求め、群４は、義務型・日課型であり、安全性や歩きやすさを求めている。群５は、子守り型で若年から高齢までの女性の比率が高く、沿道の風景やコミュニケーション、迷路性を求め、群６は、気分型で自宅近くに、歴史性や閑静さを求めている。群７、群８は、迷路性、町並みの景観、見晴らしなどを求めている。

表-11　各群に出現しやすい属性と経路選択理由

群1	女性、20才未満、40才代、勤務、学生、主婦
46	賑いがあって楽しい、仲間と話ができる、沿道の生け垣などがきれい
群2	男性、70才以上、無職
49	休憩・見晴らしができる、自然の動植物に接する、風景が美しい、路面が土で歩きやすい
群3	20才未満、30才代、60才代、農業、公務員
106	町並みが美しい、自動車が通らない、風景が美しい、自然の動植物に接する
群4	40才代、50才代、農業、自営、公務員
60	照明が充実していて明るい、自宅の近くにある、路面が土で歩きやすい
群5	女性、20才代、30才代、70才代、学生、主婦、無職
24	沿道の生け垣などがきれい、仲間と話ができる、迷路のようで面白い
群6	男性、20才代、60才代、70才以上、農業、自営、勤務
71	歴史性を楽める、自宅の近くにある、閑静で落ち着く
群7	女性、20才代、30才代、主婦
6	賑いがあって楽しい、迷路のようで面白い、休憩・見晴らしができる、町並みが美しい
群8	男性、20才代、30才代、公務員
5	歴史性を楽める、迷路のようで面白い、町並みが美しい、休憩・見晴らしができる

注1）上段：現れやすい個人属性、下段：選ばれやすい経路選択理由
注2）男女比は男性148：女性219であるため、実数では全ての群で女性が多いが、この比率で基準化することによって、男性が現れやすい群がでてくる。
注3）群名の下の数字は群に属するサンプル数

５．結論および課題

散歩行動調査の結果に基づいて、田主丸町における散歩行動を分析し、その実態と散歩行動の類型化に関する様々な知見を得た。

性別、年齢階層別の散歩頻度の分析から、女性や高齢者の散歩頻度が高いこと、50才以上で頻度の構成が変化することなど、興味深い結果が得られた。また、全体に健康指向型で、１時間未満の散歩が多いこと、散歩コースの選択理由では、水辺、風景、安全性、落着きなど、自然や静けさを好む傾向があることも明かとなった。また、行動分類に関する数量化Ⅲ類分析の結果で、散歩行動の分類軸として４つの意味ある軸を抽出できた。これによって、前半の単純集計では得られなかった散歩行動要素の結びつきが示され、散歩行動を考察する際の視点が明かとなった。最後に散歩行動に基づいてサンプルを８つの群に分類し、各々の特徴を個人属性と散歩経路の選択理由の２つの側面から考察し、各群の意味内容を深めることができた。

今後は、散歩経路に関する追加調査と散歩に利用される経路の分析などを通して、散歩行動の実像と散歩者に好まれる歩行空間の特性を明かにするとともに、散歩と買物行動および町並み評価との相互関係などについても分析していく予定である。

［参考文献］

1）坂本、外井、花田：「散歩」に着目した歩行空間のあり方について，土木学会第48回年次学術講演会講演概要集，1993. 9, pp. 456-457
2）坂本、外井、李：散歩からみた快適な歩行空間のデザインコンセプトの抽出，土木学会西部支部研究発表会，1994. 3, pp. 786-787
3）本山、外井、井上、中村：散歩行動と歩行空間の実態に関する調査－田主丸町市街地周辺部を対象にして－、土木学会西部支部研究発表会，1995. 3, pp. 668-669
4）坂本、外井、根本、門司：地方の中心商店街地区における買物行動と歩行空間整備に関する住民意識田主丸中央商店街地区を事例として－、土木学会西部支部研究発表会，1995. 3, pp. 666-667